

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

長野 真結(九州大学大学院人文科学府)

初めて参加させていただきました。私はこのセミナーへの参加に対し、最後まで気後れしていました。と申しますのは、九州大学の研究室において修士一年にしてすでに就職を考えているのは私以外におらず、自分が修士課程の学生として非常に曖昧なスタンスをとってしまっていると常々感じていたからです。ましてやこのようなセミナーに参加される方は、研究の道をすでに見定めていらっしゃる方ばかりなのではないか、そんな皆さんの中でうまくやっていけるのかと大変不安に思っておりました。ですからこの四日間は、自分がどうなりたいのかを見つめなおす日々となりました。

もちろんプログラムは純粋に楽しいものばかりでした。自分の発表こそしませんでした。先生方や発表者の皆さんから多くの知見を得ることができました。世界史に広く興味を持ちながらも、なかなか自分の専門範囲を離れることができずにいた私にとって、こうして様々な時代や地域を違った視点から研究されている方々のお話を聞くことができたことは、普段籠っている狭い世界を開かせ外へ踏み出させてくれる非常に大きな機会となりました。

意見交換の場においては、それぞれの着眼点の違いが最も衝撃的でした。九州大学からは私を含め三人が参加していましたが、彼らの発言は耳慣れたものであり瞬時の理解が容易であったのに対し、他大学の参加者の意見については、意図や思考を読み取るのに時間を要することにまもなく気が付きました。これにより、普段のゼミにおいては知らず知らずのうちに固定化された方向から物事を見ていたことに気づかされることとなりました。またこれは自らが発言するときも同様でした。拙い意見をくみ取ってくれる慣れ親しんだ人間ばかりの場を離れ、あらゆる分野の方がそれぞれの視点を持って議論をぶつけ合う場に参加することができたことは大変大きな意義があったように思います。

先述のように、私は研究者を目指しておらず、その立ち位置や温度差にいたたまれなさを感じたり、逆にその立場を言い訳にしまったりすることがこれまで数多くありました。しかしこのセミナーには、多様な進路を描く方々が、それぞれの進路を見据えたうえでなおその分野に誇りをもって邁進しておられました。そのような参加者の皆さんの姿を見て、恥じ入るとともに大変勇気づけられました。

改めてこのような場を提供していただいた皆様に感謝いたします。準備期間から大変お世話になりました。このセミナーの趣旨に沿うかはわかりませんが、もしも研究以外の道を視野に入れている私のような方がこのセミナーへの参加を迷っていらっしゃるのなら、本レポートがその後押しとなれば幸いです。本当にありがとうございました。